

### (3) 学びのための環境整備について

『藤井』

次に、子育て・教育について教育長にお伺いします。はじめに、(1) 学びのための環境整備についてです。私は、毎朝、登校ボランティアとして子どもたちと一緒に河北小学校まで行っています。その折感じますのは、子どもたちは「地域の宝」としてたくさんの方に見守られている、育てていただいているということです。

さて、子育てに関わって保護者や地域の方々の心配事の一つが登下校の安全です。特に悪天候時の対応です。保育所は、基本的に保護者の送り迎えなので心配はないと思いますが、学校、特に小学校の子どもなどは心配です。以前議会でもこのことについて質問がありましたが、どのような場合に休校となるのか、休校となった場合の対応等最近の状況について教えていただけないでしょうか。また、保育所・学校は倉吉市の指定避難所となっています。このことは、耐震性（地震等）や風水害などに対して安全な建物であるという認識でよいのでしょうか。

『教育長』

登下校中の不幸な事故が相次ぎ、残念ながら倉吉でもありました。そういうことも含めて一生懸命取り組んでいます。登下校ボランティアも含めて市内で1年間に1800名あまりの人が、ボランティアとして関わっていただいています。

休校の扱いについては、小・中学校校長会とも話をしながら、原則的には午前6時の段階で警報がでていた場合休校としています。ただし、場合によっては状況を見ながら柔軟な対応をしています。事前の保護者への連絡が一番大事だと思います。登下校の安全については、安全点検などを踏まえて、地域から要望の出てきたものを予算化しています。

『藤井』

休校時の対応などについてお話いただきました。状況に応じて、子ども、保護者、地域の方々が困れないよう連携をお願いします。

さて、指定避難所ということです。倉吉市立小中学校施設耐震化計画には、次のように書かれています。

「・・・本市においても、学校施設の耐震化は児童生徒等の安全・安心のみならず、非常災害時の地域の拠点として重要であり、さらなる促進を図る必要性がある・・・倉吉市学校教育審議会から「倉吉市立小・中学校の適正配置」についての答申を受けました。この中の学校の再編案では、再編後にどの学校施設を使用するのかは未確定であります。しかし、今、学校で学習・生活をしている次世代の倉吉を担う児童生徒の安全を守るため、災害発生時に地域住民の

応急避難場所としての役割を果たすため、学校施設の耐震化の促進を図り、耐震化の早期完了を目指します。」とあります。

避難所ということは、保育所や学校は、赤ちゃんからお年寄りまで使うことも想定しているわけです。災害はいつ起こるかわかりません。真夏の暑い、熱中症警報の出ている時かもしれません。寒い冬場かもしれません。トイレでも座って用を足すのがつらい方も多くおられます。

さて、「県内小中学校変わるトイレ事情」という新聞記事があります。その中に、学校の中で改善の必要な場所としてトイレを上げる声が一番大きいということでした。さらに、・・・「倉吉市は設置箇所を把握していないが、担当者も「増えている」と分析している。」とありました。そこで、教育長にお尋ねします。倉吉市の現状のエアコンの設置率、洋式トイレの整備状況はどのようになっていますか。

『教育長』

洋式トイレとエアコンの設置率についてです。小中学校のエアコンの整備状況は、保健室、図書室、音楽室、パソコンルーム、職員室、校長室、特別教室の一部は整備を終え、本年度末で32%の予定です。残りの普通教室、特別支援教室、特別教室の一部については、当面天井扇で対応していきます。天井扇の整備率は73%となっています。残りにつきましては、年次的に整備していくこととしています。洋式トイレにつきましては、市内の学校全体としては37%です。

『藤井』

全体の設置率はエアコンが32%、洋式トイレが37%ということです。エアコンは管理所室（職員室、校長室、保健室等）は97%でほぼついています。しかし、子どもたちが使用する機会の多い普通教室は山守小学校は100%ですが、残りの学校は0%で平均すると4%です。洋式トイレにつきましても改修の関係で学校差があり多い学校（河北中）92%から少ない学校7%と差があります。

倉吉市立の公立保育所にも同様の調査をお願いしましたが、こちらの方は子どもたちの使う部屋のエアコン設置率は78%で、来年度の予算要望も計画しておられるようです。洋式トイレにつきましても設置状況は、小中学校より進んでいます。

さて、多くの家庭ではエアコンが設置してあります。総務省の調査によると家庭での洋式トイレの設置率は90%となっています。高校の普通教室にもエアコンは設置されています。夏の猛暑は過酷です。毎日のように熱中症警報が流れ、「室内の適切な温度管理」の呼びかけがあります。PM2.5の問題もあります。避難所としてのバリアフリーの視点からも洋式トイレ・エアコンの

設置は必要です。

3年前（平成22年12月）、議会での普通教室へのエアコンの設置について教育長と市長は次のように答弁されております。

教育長「緊急性のある保健室、それから図書室からすすめる。普通教室は多額になるので扇風機から設置する。・・・暑さが恒久的なものなのか、去年のものなのか、そういったところをまた考えてみる必要があるかと思います。」

市長「子どもの小さいうちからエアコンでずっと成長すると、子どもの体温調整機能が育たないということも聞いたりしています。それと、そうはいつでも異常な暑さ、去年のような暑さが続くようであれば、これはやはり考えないといけないことだろうなという風に思っています。その辺状況もよく踏まえながら検討をしていきたいと思います。」

暑さは1年だけのことでしたか？子どもは地域の未来を担う宝です。「選択と集中」で大切なことには予算を使ってください。教育長、市長の前向きな答弁をお願いします。

『市長』

エアコン、洋式トイレなど子育てに関わる支援についてです。環境が過酷になっています。特にエアコンについて、整備を進めるべきではないかということです。確かに夏の暑さは半端じゃないということでもあり、教育委員会と相談しながら、必要な箇所についてはつけていくというスタンスで行きたいと思えます。

『教育長』

暑さについては続いています。この点からいくと避けては通れないところです。県内の4市の状況では、境港市は全校に着いています。これは、自衛隊の基地関係に基づいていて、防衛に補助によるものです。鳥取市17%、米子市25%、中部地区については27%から30%ということで、倉吉市のみが落ちているということではありません。できるところからやっていくということです。

先ほど「選択と集中」ということがありましたが、現状では学校の耐震化、これは県内でも最低水準なので、これをまず進めていっているところです。